

「2022年中国・浙江大学 派遣参加報告書」

京都大学経済学部 4年 (川口桂由)

①最も大きく変わった部分は、外国語（今回使用した英語、中国語）への意識であった。私は留学体験や海外経験があるわけではなかったため、中国語はおろか英語でも円滑にコミュニケーションを取るのが困難なレベルだった。そのため、自分の言いたいことが言えない時や他の人の発言の意図が十分に理解できない瞬間が多々あり、自分の英語・中国語能力にもっと磨きをかけたいと思う気持ちが一層強まった。同じプログラムを受けている他大学の一部の学生や現地の先生・学生は皆、流暢に英語を話しており、自分の能力を客観視することができ大変な刺激になった。今まで腰が重くチャレンジできずじまっていた英会話の勉強を開始する、良いキッカケ・モチベーションとなった。

勿論、中国語を学んでいるのも楽しく、言語習得への取り組み態度が変化したとも感じている。特に中国語は初学者にとって発音が難しく、習い始めは大変な苦勞をした。ただ、繰り返し授業を受けていく中で理解できていく喜びを見つけることができ、今では自主的にテレビで中国語の番組を見たり、中国語の文法を学んだりと自身で学びを深めていくようになった。自発的に英語以外の言語の学習をする、というのは以前までの自分であれば全くなかったことである。この留学を通して、言語の勉強はもっとカジュアルに取り組めるし、何より知らなかったものを知ることができる興味深い体験であると捉え直すことができた。

そして留学全体を通して、他の学生と比して自分の学びが薄くさらに勉学を積む必要があることを痛感した。特に中国の学生は、勤勉で国際政治や言語など幅広い知識を持っており、文化的にも日本文化のことを良く学んでおられた。（学歴の重要性や学習への態度は、中国の方が圧倒的に上だと感じた。）自分の浅薄さを身を以て知り、国際人になるためにはより広く、深い見識を身に付けなければならないと感じさせられた。

②私は中国語の初学者としてクラス分けされ、一から基本的な発音・文法事項を学習した。

プログラムの日程のうち、ほぼ毎日1時間中国語の学習を行う。初学者のクラスは、先生が英語を交えながら指導し、出席確認のあと、時に指名されて問題の応答を行いながら、基礎的な内容を学習していく。毎授業後、その日学習したポイントを抑えた課題が出され、アプリ内の録音機能を用い、担当教員に private chat にて直接提出する。また初学者のクラスでは、最終課題として身の回りにある中国文化について語ったりプログラムの参加理由を説明したり、など要件の決まった動画（自身で作成、英語又は中国語で撮影、長さは問われない）を作成するよう求められた。少し恥ずかしいような気持ちはしたが、教員の方が凄くポジティブに褒めて下さった。

もう一つ、中国語の学習とは別に、中国の文化体験や経済について、40~50分ほどの動画（主に中国語、字幕は英語）を鑑賞し、それに基づいて Q&A を行う文化交流の時間が設けられていた。この2つの授業を合わせ、毎日2~3時間ほどの授業時間だった。

③既に就職活動が終わっていたため、直接的にキャリアに影響するということはないが、本プログラムで体験した（簡易ではあるが）国際交流は非常に楽しく、将来的に留学や長い年月で海外経験を積みたいと思うようになった。文化交流の一環で鑑賞したビデオでは中国浙江省の歴史と自然の入り組んだ街並みや西湖の美しい風景が紹介されており、現地に行ってこの目で見てみたいという強い気持ちが生じた。これまで海外経験に乏しかっただけに、中国を含む国外への興味はそこまで大きくなかったが、オンライン留学を通してもっと他の国に行ってみたい、その国のことを知りたいと思うようになった。